



ダメ！高齢者虐待

虐待予防のためにできること

高齢者虐待は、高齢者の人権を侵害する深刻な問題です。

それは、発生しないのが理想であり、発生の恐れがある場合には早期にその芽を摘むことが大切です。

そのためには、社会全体での対応が必要です。

『介護は家族がするのが当たり前』という考え方や周囲の方の何気ない一言が、介護者（養護者）を追い詰め、虐待の発生する原因の一つとなっている場合があります。

◎地域での見守りや声かけ

高齢者虐待は、家庭の中で行われることが多く、虐待を受けた高齢者は家庭内の問題として周囲の方に事実を訴えない傾向があります。

また、虐待をしている養護者は、しつけや夫婦げんかなどと思いがちで『虐待をしている』という認識がない場合もあります。



す。

高齢者や家族のちょっとした変化に気づき、みんなが声をかけあったり、支えあったりすることが虐待の予防につながります。

「おはよう。こんにちは」など、何気ない毎日の声かけも大切な見守りの一つです。

介護が必要な高齢者のいる家庭をあたたく見守り、地域から孤立させないことも大切です。

『何かおかし』

『どうしたらいいんだろう』

そう思ったからお気軽に相談窓口

▼高齢者虐待に関する相談窓口

- 高齢・介護グループ（☎⑤720）、または地域包括支援センターあおい（☎③0511）・ゆのか（☎③2106）・けいあい（☎②5005）

人が輝き まちがときめく

仲間たち

Group

登別アカシアクラブ

登別アカシアクラブは、昭和53年に、市主催の『健康スポーツ教室』でバドミントンを学んだ方が結成し、今年で32年目を迎えるバドミントンサークルの老舗の一つ。毎週月・木曜日の10時から総合体育館で活動しています。

「会員は、初心者から上級者までさまざまですが、みんなバドミントンを楽しんでます」と話すのは会長の大越淑恵さん。「昼間は、どうしても女性を中心のスポーツサークルが多いのですが、このサークルの会員の半数は男性です。仕事の都合などで昼間に運動したいという方は、ぜひ参加しませんか」と男性の入会も呼びかけていました。また、会員の本名さんも



初心者も競技志向の方も一緒にバドミントンを楽しみましょう



「バドミントンをするのが初めての方でも親切に指導します。スポーツはしたいけれど初めての種目は不安だと言う方もぜひ参加してください」と初心者の方の入会を呼びかけていました。

サークル創設当初からの会員で、全道や全国の大会にも参加する岸谷さんは「健康増進や競技志向など会員の活動目的はさまざまですが、一つ試合をすれば、みんなが真剣にシャトルを追いかけ白熱したラリーが展開されます。また、練習の合間にみんなが食を取りながらする談笑も楽しみの一つです」と活動の楽しさを話してくれました。入会を希望される方は大越さん（☎②2210）まで。